



独立行政法人国立病院機構 東徳島医療センター

〒779-0193 徳島県板野郡板野町大寺字大向北1-1

TEL 088-672-1171 FAX 088-672-3809 URL <https://higashitokushima.hosp.go.jp/> e-mail 515-KANRIKA@mail.hosp.go.jp

やさしい笑顔と よりそう医療

6月号

vol.191

2021.6.1



いちご問題



放射線科 手塚 美貴

農業をしている父から連絡がきた。「いも、掘りに来い」。徳島では、いも掘りといえば、多くの人がさつまいも掘りを想像すると思う。しかし時期は4月上旬。ビニールハウスで栽培された新ジャガイモの収穫時期である。コロナ禍でなかなかおでかけできない子供達にとって、いい機会だ。外は過ごしやすい気候でも、ビニールハウスの中は暑く、日よけをかけてもらいながら、「見つけた!」「大きいのあったよ!」とにぎやかに掘り進めていった。ミミズ、オケラ、ハサミムシ、カエル、ムカデ、テントウムシ、モグラの穴……いろんなものに遭遇しながら。

イモとよんで食べている部分は地下の茎（塊茎）にあたります。収穫してから数か月間は休眠するので、その間は芽がでませんが、休眠が終わると発芽します。ここにはソラニンという毒素が含まれており、加熱しても消えにくいので、取り除いて食べます。イモが日光に当たると緑色になり、この部分にもソラニンが含まれているので、食べてはいけません。

ジャガイモの収穫が終わると、長女が楽しみにしていたいちご狩りである。昨夏、父に無理にリクエストして栽培してもらった。栽培するのは数十年ぶりの2度目らしいが、間違いなくいちご畑ができていて驚いた。長女はよく熟れているものを教えてもらいながら、貸し切りいちご狩

りを満喫したようである。たくさん採れたので、子供達といちご大福も作った。

いちごと言えば、三男の算数の宿題を思い出す。“りんご2こ、かき3こ、いちご5こ、レモン4こ、すいか1こ。くだものはぜんぶでいくつでしょう。”という問題で、三男の答えは9こ。先生に✓とされている。計算間違いだろうと思いながら「なんで9こ?」と尋ねると、「だって、いちごとすいかは野菜だろ。」と大まじめに答える三男。思いもかけない理由に絶句してしまった。確かに果物は木の果実であり、イチゴやスイカは木に生らない。農林水産省によると草に生るので分類上は野菜であるが、果実的な利用をすることから果物的野菜として扱われるとのことである。家にある図鑑では「果物のような野菜」に分類されており、メロンもこの仲間であった。三男の答えもある意味間違いではないかもしれない。「なるほどね」とだけ返事をして、同じような問題がテストで出ませんように、と祈ることにした。

自分が当たり前と思っていることは当たり前ではない、と気付かされる子育てとコロナ禍である。一日一日を大事にしたいと思う。原稿が発行される頃にはコロナ感染者数や医療情勢が少しでも改善していますようにと願いながら、手洗い・マスク・3密回避に気を付けて暮らしたい。



● 看護学校便り ●

閉校式を終えて



桃の花が咲き、桜の季節を迎えようとしていた3月5日、徳島県知事飯泉嘉門様、独立行政法人国立病院機構中国四国グループ担当理事奥谷卓也様をはじめご来賓の方々のご臨席のもと、独立行政法人国立病院機構東徳島医療センター附属看護学校の閉校式を挙行了いたしました。

この日が来ることはわかっていましたが、いざこの日を迎えると惜別の思いが一層こみ上げてきました。当初は歴代の講師や学校職員、同窓生を招いて盛大に開催する予定でしたが、コロナ禍で叶わず、残念ではありましたが、学校長先生をはじめ学校運営委員、同窓生や病院スタッフの支援、協力を得て、厳粛な中にも皆様の本校への想いが詰まった素晴らしい式典となりました。

本校は昭和28年4月に国立板西療養所附属准看護学院として創設され、昭和35年には進学課程へ変更、昭和56年4月には全日制の年課程へと切り替わり、社会が看護職に求めるニーズに対応しながら変化し、変化してはならない看護の心は大切に看護基礎教育の充実を図ってまいりました。卒業生は1980名を数え社会に貢献しています。厳しさのなかにもたくさんの

愛情をもって大切に育てられた本校の卒業生たちは、今後は自分たちが他者のためにとその役割を各々の場所で生かし東徳で培った看護の心を紡いでいくのだと思います。

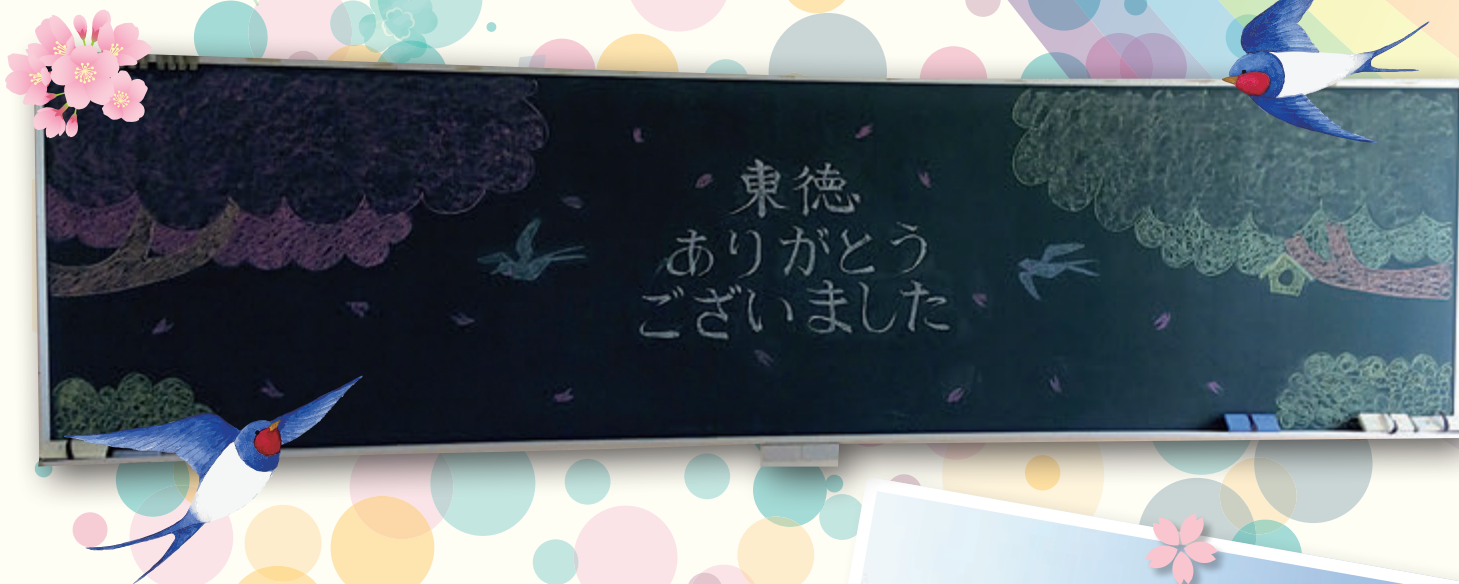
本校最後の卒業生となる38期生の皆さん、皆さんが社会へと羽ばたいた後、壁に突き当たることもあるでしょう。皆さんを本校で迎えることはできません。しかし、多くの先輩たちが、皆さんを支え見守っています。不安がらずに前に進んでください。どんな苦難が来ようとも、医療はチームです。皆で助け合い一緒に乗り越えていきましょう。

最後になりましたが、昭和28年から本校が看護基礎教育を継続できましたのも、学校内外の講師の皆様、実習施設の皆様、地域の皆様、国立病院機構ならびに母体病院である独立行政法人国立病院機構東徳島医療センターの皆様のご指導ご支援の賜物と感謝申し上げます。これまでの数えきれないほどの親身あるご協力、本当にありがとうございました。皆様方のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

(教育主事／東谷 みゆき)



同窓生、病院スタッフの寄せ書き



✧ 看護師特定行為研修 ✧

「血糖コントロールに係る
薬剤投与関連」を修了しました。

私は、2011年糖尿病看護認定看護師の資格を取得しました。主に外来で糖尿病患者さんの療養指導やフットケア支援を行い、血糖をよくするための食事や運動、内服管理について患者さんと一緒に考えてきました。その中で、自宅で血糖を測ってこられる患者さんのインスリン調整を私自身が出来るようになったら、より患者さんに寄り添った支援が行えるのではないかと考え、看護師特定行為研修に参加しました。

研修修了後は、医師の指示の下、身体所見（口渇、冷汗の程度、食事摂取量等）及び検査結果（血糖値等）等が医師から指示された病状の範囲にあ

ることを確認し、インスリンの投与量の調整を行うことができます。

これから、医師や診療看護師の指導を受けながら経験を重ね、学んだことを患者さんへの看護でお返しできるように頑張っていきたいと思います。そして、糖尿病についてわからないこと、困っていること、なんでもかまいません。外来で勤務しておりますのでお気軽にお声をかけて下さいね。宜しくお願いいたします。

（外来勤務 糖尿病看護認定看護師 特定看護師
／大花美千代）

